(仮称)第2期山口・小郡都市核づくりマスタープラン骨子案 目次

1 プラン策定の趣旨·背景·視点··································	·
2 プランの位置づけ・計画期間	
3 現行プランの取組の成果	
4 都市核づくりの基本的な方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
5 都市核における交通軸(ネットワーク)	
6 対象エリア(ゾーニング)	
(1)山口都市核エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(2)小郡都市核エリア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
7 各ゾーンの目指す姿及び具体的な取組	
(1)山口都市核・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
①亀山周辺・中心商店街ゾーン、大内文化ゾーンの目指す姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
ア亀山周辺・中心商店街ゾーンの具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
イ大内文化ゾーンの具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
②情報・文化ゾーン、湯田温泉ゾーンの目指す姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
ア情報・文化ゾーンの具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
イ湯田温泉ゾーンの具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
(2)小郡都市核・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
①市街地形成ゾーン、業務集積ゾーンの目指す姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13
②市街地形成ゾーン、業務集積ゾーンの具体的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
8 今後のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15

(仮称)第2期山口・小郡都市核づくりマスタープラン骨子案

1 プラン策定の趣旨・背景・視点

■趣旨

これからの山口市のまちづくりを進めていく上で、山口都市核と小郡都市核の具体的な将来像を描き、広く市民の皆様に公開し、共有するためのプランとして策定するもの。

■背景

本市は、高次の都市機能を集積し、若者等の雇用の受け皿となるサービス業の振興を図り、市内全域や県央部等に対して広く高次の都市機能を提供することで、あらゆる地域に安心して住み続けられるまちづくりを進めていくため、これまで広域経済・交流圏の形成、広域県央中核都市づくりを積極的に進めてきたところである。

今後の人口減少・少子高齢社会において、県勢の発展をけん引し、一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持していくため、県都、連携中枢都市、中枢中核都市の役割として、引き続き「広域県央中核都市づくり」を進めていく必要がある。

こうしたことから、山口・小郡都市核づくりマスタープランは、広域県央中核都市づくりを積極的かつ継続的に進めていくため、山口・小郡両都市核がもつ特性を踏まえた広域交流拠点の形成とともに生み出される好影響・好循環の対流型のまちづくりの実現により、圏域の更なる価値創造や経済循環を図る両都市核における都市整備のグランドデザインを示すものとし、あわせて、これまでの取組での成果や課題等を踏まえ、今後の環境変化や次世代の都市像等を見据えた長期的な視点でのまちづくりの指針とするものである。

■視点

- ・現行プランの成果の継続と課題の解決に向けた取組の推進。
- ・少子高齢化、人口減少社会の進展による様々な社会課題等が顕在化する2040年頃を見据えた対応や、人生100年時代に向け、誰もが生涯にわたって活躍できる地域社会づくりへの対応。
- ・大規模災害が懸念される中、<u>自然災害等に対する防災、減災対策</u>やエネルギーの効率的な利用による<u>環境に配慮し</u> たまちづくりの推進。
- ・公共施設をはじめとした社会基盤等が更新時期を迎える中、人口減少社会に対応した持続可能な社会基盤整備や、 連携中枢都市圏域の形成や中枢中核都市づくりなど東京一極集中の是正に向けた受け皿となる地方拠点の整備。
- ・自動運転をはじめとした、5G、AI、IoTなど市民生活や経済活動などのあり方に影響を与える革新的技術を社会に 実装し、Society5.0 時代を見据えた対応。
- ・人やモノ、情報等の円滑かつ活発な交流に向けた<u>都市核間との連携強化</u>や、他都市との<u>広域的なネットワーク形成</u> の推進。

2 プランの位置づけ・計画期間

広域県央中核都市づくりの推進

山口市総合計画 (H20年度~H29年度) 第二次山口市総合計画 (H30年度~R9年度)※10年間 (仮称)第三次山口市総合計画

(R9 年度~R19年度の予定)

現行の山口・小郡都市核づくりマスタープラン (H20年度~) (仮称)第2期山口・小郡都市核づくりマスタープラン

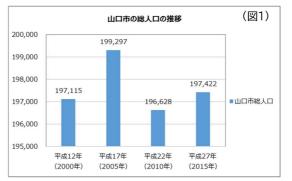
(予定:R3年度~R22年度) ※20年間

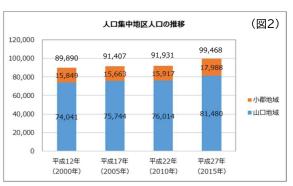
※未来につながる持続可能なまちづくりを進めていくため、計画期間は概ね2040年を目標年次とした、 概ね<mark>20年間</mark>とする。

3 現行プランの取組の成果

■本市全体

・<u>定住人口は平成22年に減少に転ずるも、平成27年に再び増加</u>するとともに、山口・小郡両都市核を含む<u>人口集中地区</u> 人口については増加を続けている。(図1・2)





■山口都市核

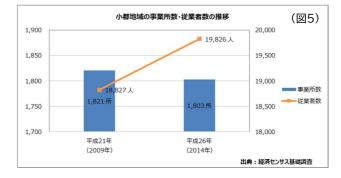
- ・減少傾向であった、山口都市核を含む大殿・白石・湯田地域の人口は、平成27年に増加に転じている。(図3)
- ・湯田温泉の観光客数は、日帰客、宿泊客ともに概ね増加傾向にある。(図4)





■小郡都市核

- ・小郡都市核を含む小郡地域における従業者数は5年間で5%増加。(図5)
- ・JR 新山口駅の利用者数は増加傾向にある。(図6)





- ・平成27年国勢調査において、本市全体の定住人口や山口・小郡両都市核を含む人口集中地区人口が増加。
- ・山口都市核について、<u>定住人口や湯田温泉の宿泊客数などは概ね増加傾向</u>にあることから、山口都市核の基本方向である「住みよさと創造が織りなす 文化交流拠点の形成」に向けた成果は順調といえる。
- ・小郡都市核について、<u>小郡地域の従業者数やJR新山口駅の利用者数などは概ね増加傾向</u>にあることから、小郡都市 核の基本方向である「街の快適さと営みが広がる 産業交流拠点の形成」に向けた成果は順調といえる。

現行プランにおける両都市核づくりの取組の成果は着実にあらわれている

4 都市核づくりの基本的な方向性

第二次山口市総合計画基本構想に掲げるまちづくりの基本方向と整合性を図り、山口都市核は「行政・歴史文化」機能、小郡都市核は「経済・ビジネス機能」と、それぞれの都市機能を特化させ、両都市核が互いの特性に応じて個性を磨き上げるという方向性のもと、都市部も農村部も共に発展するという好影響・好循環の対流型のまちづくりを進め、高次都市機能の集積を通じて若者等の雇用の受け皿となるサービス業の振興を図ることで大都市圏への若者の流出に歯止めをかけるとともに、周辺地域をはじめ広く県央部等に対して医療や教育等の高次都市機能を提供することで市内のあらゆる地域に安心して住み続けることができる、本市全体の持続可能な発展を目指す。あわせて、Society5.0時代への対応として、AIやIoT、ビッグデータなど様々なデジタル技術をまちづくりに取り入れ、両都市核づくりを加速化する。

【山口都市核】

「山口県ナンバーワンの広域観光・文化創造拠点づくり」

各ゾーンが有する機能や地域資源、既存ストック等の魅力を更に高め、人の流れを誘引できる社会基盤整備や施設整備に取り組みます。また、人の流れを5つのゾーンに波及させるため、安全で回遊性の高い歩行者空間の整備や交通結節機能の整備、人々を惹きつける魅力的な空間整備等に取り組みます。

【取組方針】

- ①歴史・文化を大切にはぐくむ都市空間の形成
- ②時間の消費を促す行政・歴史文化・商業機能等の強化
- ③多様な暮らし方や働き方の選択が可能な都市空間の形成

【小郡都市核】

「山口県ナンバーワンの交通結節・ビジネス拠点づくり」

県の玄関にふさわしい交通結節やアクセス機能の更なる強化に取り組みます。また、新山口駅や山口 市産業交流拠点施設を中心に新たな交流や活力、賑わいを創出する空間整備等に取り組みます。

【取組方針】

- ①交通結節機能・アクセス機能等の強化
- ②ビジネス機能を中心とした魅力的な都市空間の形成
- ③交通アクセスの利便性を生かした都市空間の形成

5 都市核における交通軸(ネットワーク)

新たに都市核と都市核等を結ぶ交通軸の考え方を明らかにすることとする。そのため、都市核における人・モノ・情報等の交流を促進する交通軸として、以下のものを設定し、今後は<u>交通軸をもとに、人・モノ・情報等の円滑な移動を確保す</u> るための連携強化策等について整理・検討を進める。

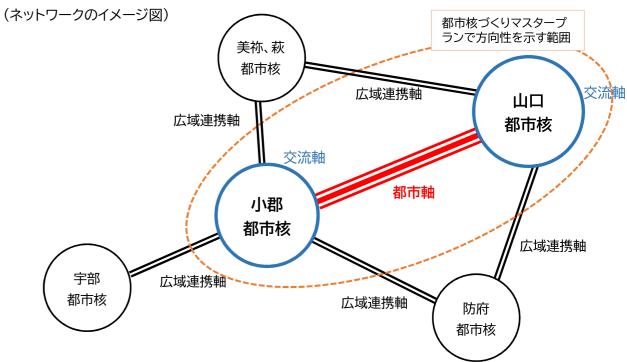
好影響・好循環の

対流型のまちづくり

交通軸 (ネットワーク)	概要
都市軸	山口都市核と小郡都市核を結び、人の交流や経済活動など、本市全体の発展を支える交通軸。 ⇒主要幹線道路、山口宇部道路(山口都市核と小郡都市核を結ぶ範囲)、鉄道
交流軸	都市軸や広域連携軸と各ゾーンを結び、各ゾーンへ人の流れを誘導する交通軸。 ⇒ <u>各ゾーンの外周道路</u>
広域連携軸	本市と山口宇部空港をはじめとした他都市や山口県央連携都市圏域を結び、広域的な求心力や拠点性を高めていくための交通軸。 ⇒山陽自動車道、中国自動車道、山口宇部道路、小郡萩道路、国道2号、新幹線、鉄道

【都市核連携の基本方向】

- ・小郡都市核が山口県ナンバーワンのビジネス拠点として生み出す新たな交流や活力を、山口都市核が山口県ナンバーワンの広域観光・文化創造拠点として惹きつけ、山口都市核や本市全体の経済循環や価値創造につなげる。
- ・行政、歴史文化、商業、観光資源などを有する山口都市核内の5つのゾーンで互いに対流することで、山口都市核全体の魅力を高めるとともに、小郡都市核へ人の流れを生み出し、更なるビジネス機能を発揮させる。
- ・小郡都市核のアクセス性、交通結節機能を生かし、宇部市や防府市などの山口県央連携都市圏域との連携を図り、役割分担のもとで高次都市機能の集積を図る広域県央中核都市づくりを進める。

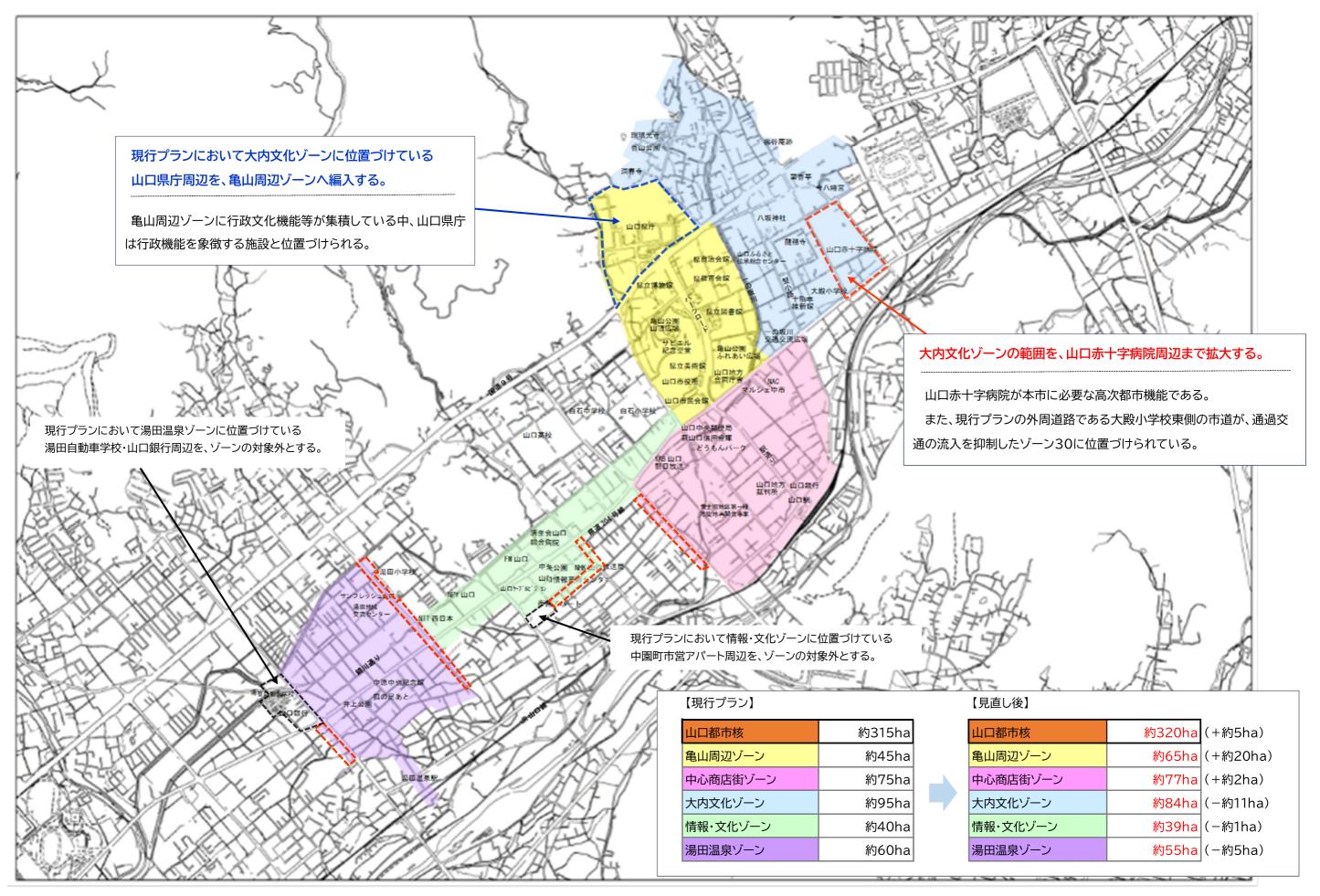


【都市核の連携に向けた具体的な取組(例)】

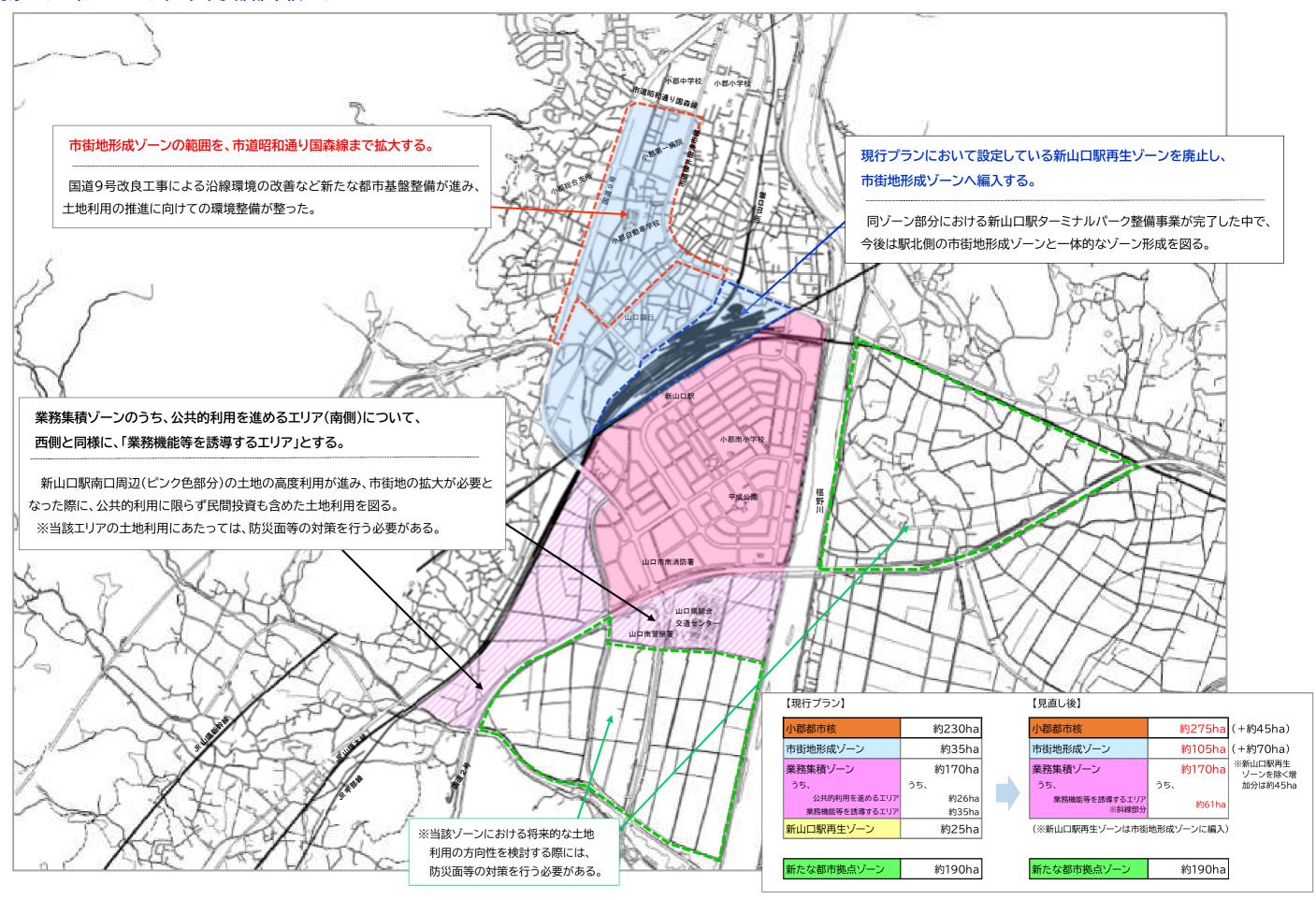
- ・都市軸を中心に公共交通をはじめとしたタクシー、小型モビリティ、カーシェアなど新たなモビリティサービス等の実装による多様な移動を実現する。
- ・都市軸を中心に自動運転等の専用レーンやバス専用レーンなどの導入に向けた検討を進める。



6 対象エリア(ゾーニング) (1)山口都市核エリア



6 対象エリア(ゾーニング) (2)小郡都市核エリア

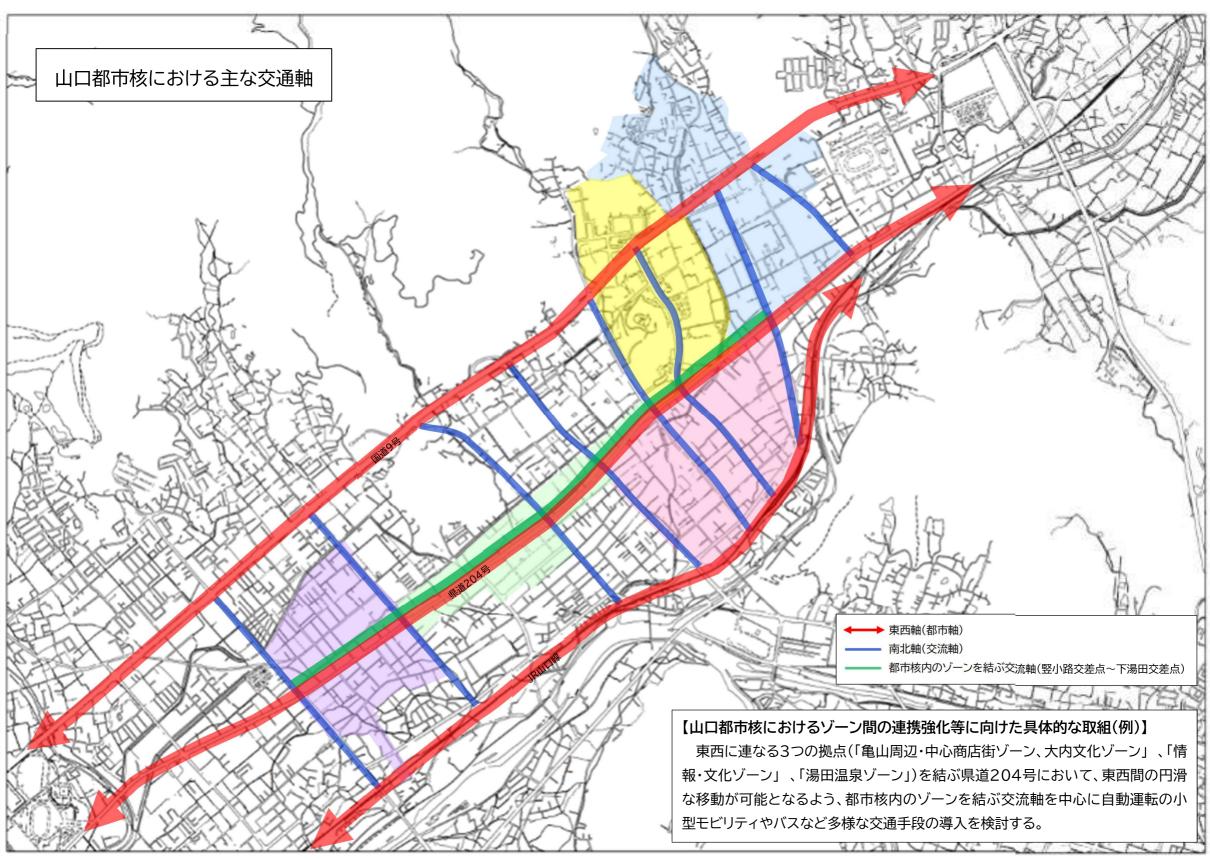


7 各ゾーンの目指す姿及び具体的な取組 (1)山口都市核

山口都市核の目指す姿

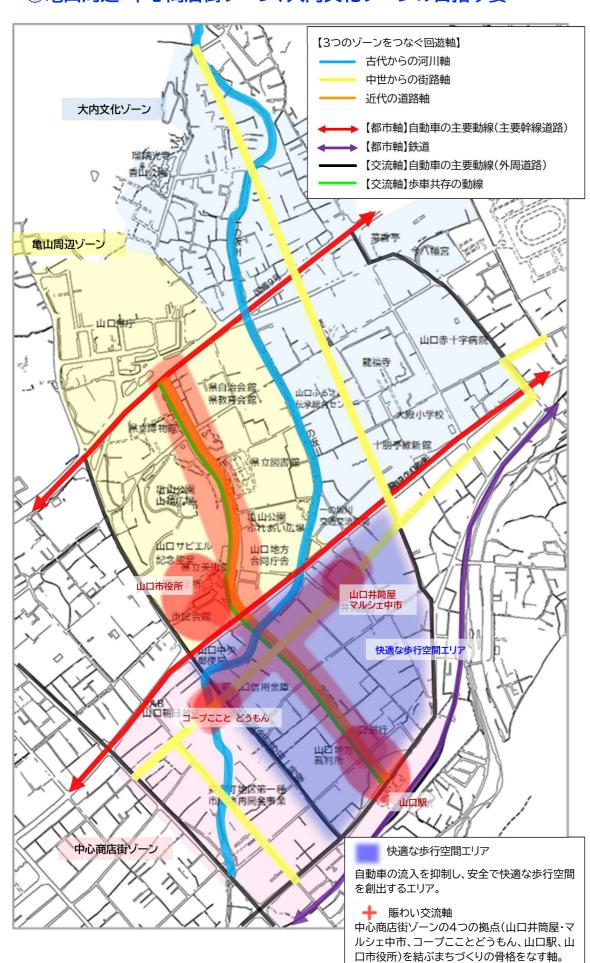
山口県ナンバーワンの広域観光・文化創造拠点づくり

第4章に示した基本的な考え方に加えて、ゾーン間の連携強化、各ゾーンへのアクセス性向上を図るため、東西軸と南北軸で形成されるラダー型(はしご型)の交通軸の更なる充実・強化を図る。



7 各ゾーンの目指す姿及び具体的な取組(1)山口都市核

①亀山周辺・中心商店街ゾーン、大内文化ゾーンの目指す姿



■亀山周辺・中心商店街ゾーン

コンセプト:山口都市核の中心地区として一体的なまちづくり

山口都市核の行政、文化、教育、商業等の様々な都市機能が集積している中心地区としての特性を生かし、各機能等の相乗効果が発揮され、更なる賑わいや交流の創出、価値創造につながるよう、両ゾーンの一体的なまちづくりを進めます。

また、中心商店街ゾーンの賑わい交流軸の東西南北の核である4つの拠点(山口井筒屋・マルシェ中市、コープこことどうもん、山口駅、山口市役所)の機能強化を図り、賑わい交流軸を中心に賑わいの創出を図り、また、亀山周辺ゾーンの行政、文化、教育等の都市機能の維持・集積を図ります。

【取組方針】

①まち歩きを楽しめる回遊性の強化

東西軸である県道204号を挟んだ両ゾーンの回遊性・連続性を高める道路・歩行空間の形成や交通結節機能を強化します。また、3つのゾーンをつなぐ回遊軸について、それぞれの軸の特性に応じた機能強化や景観形成を行います。さらに、まちなかを安全で快適に回遊できる歩行者に優しい環境を整えます。

②まちなかの賑わいを創出する交流・滞留機能等の集積・強化

賑わい交流軸をはじめとして交流や滞留機能などの様々な都市機能の集積・強化を図ります。また、商業機能の維持・集積を図るとともに、空き店舗や公共空間等を多様な活動や体験の場として積極的に活用し、賑わいや交流を創出します。さらに、パークロード一帯における県・市施設などの都市機能の維持・強化を図ります。

③既存ストックを活用した質の高い都市空間の形成

空き店舗や空きビル等の既存ストックの活用、必要な種地の確保を通じてゾーン内での適切な都市機能の更新と更なる集積を図ります。また、昔ながらの街並みや街区を生かしつつ、計画的な都市基盤整備や都市機能の導入を図ります。さらに、子どもたちをはじめとしたあらゆる世代の教育・人材育成機能を強化します。

④多様なワークスタイル・ライフスタイルを支える都市空間の形成

山口都市拠点の人口集積(足元人口)が進んでいるという特性を生かし、生活関連サービス業等の事業所をはじめとした、いわゆるBtoCなどのオフィス機能を集積・導入します。また、山口都市核の中心地区として、子育て世代や高齢者など多様な世代の暮らしやワークスタイル・ライフスタイル、価値観等の多様化に応じた、質の高い都市空間を形成します。

■大内文化ゾーン

コンセプト:歴史や文化を未来へつむぐ都市空間の形成

室町時代から積み重ねられ、形づくられた街並みをはじめとした歴史文化を、地域に対する誇りや愛着を生み出すものとして次の世代へしっかりと受け継いでいくとともに、歴史文化資源を活用した新たな価値や交流を創出するまちづくりを進めます。

【取組方針】

①歴史文化と調和した都市・生活空間の形成

歴史ある町割りや町家等の建築物、風情ある街並み等と調和した住宅や事業所等の維持・整備を促進し、また、地域医療体制の強化・維持を図り、質の高い都市・生活空間を形成します。

②歴史文化資源の保存・活用

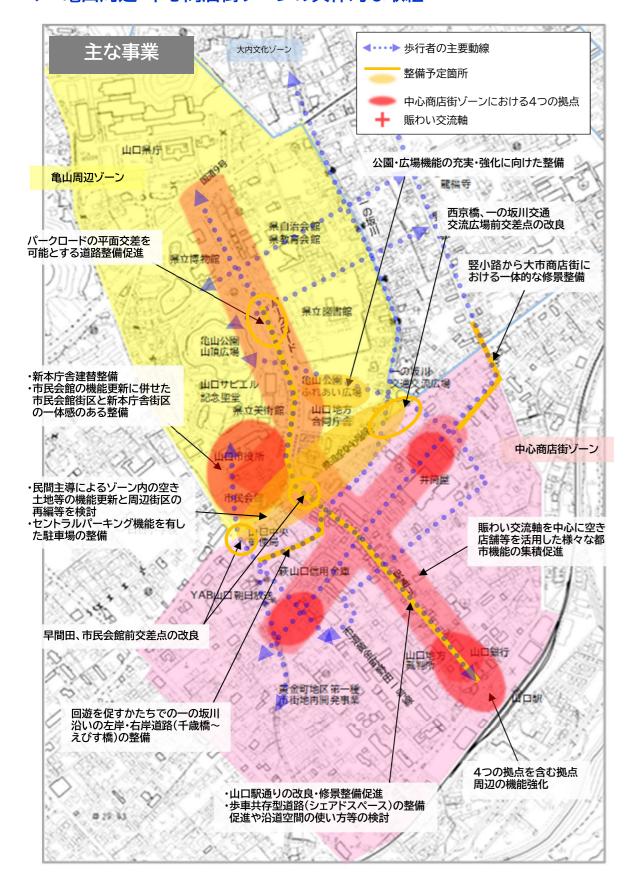
歴史文化資源を次の世代に継承していくため、保存・活用に向けた整備を行うとともに、歴史文化資源を活用した学びや体験の機会の創出等により、地域への愛着や誇りの醸成を図ります。また、歴史文化資源を活用した市民や来訪者等の交流の機会を創出により新たな価値を創造します。

③歴史散策を楽しめる回遊性の強化

東西軸である県道204号を挟んだ大内文化ゾーンと中心商店街ゾーンの回遊性・連続性を高める道路・歩行空間の形成や交通結節機能を強化します。また、3つのゾーンをつなぐ回遊軸について、それぞれの軸の特性に応じた機能強化や景観形成を行います。さらに、ゾーン内を安全で快適に散策することができる歩行者空間を確保します。

7 各ゾーンの目指す姿及び具体的な取組 (1)山口都市核 ①亀山周辺・中心商店街ゾーン、大内文化ゾーンの目指す姿

ア 亀山周辺・中心商店街ゾーンの具体的な取組



亀山周辺・中心商店街ゾーン〜山口都市核の中心地区として一体的なまちづくり〜

①まち歩きを楽しめる回遊性の強化

- ・ 新本庁舎に隣接する県道厳島早間田線、県道厳島早間田線から県道山口秋穂線の改良・修景整備(歩道整備、バリアフリー化)促進。
- 早間田、市民会館前、西京橋及び一の坂川交通交流広場前交差点の改良等。
- ・ 回遊を促すかたちでの一の坂川沿いの左岸・右岸道路(千歳橋~えびす橋)の整備。
- 山口駅通りにおける歩車共存型道路(シェアドスペース)の整備促進や沿道空間の使い方等の検討。
- 竪小路から大市商店街における一体的な修景整備(統一感のあるデザイン、サイン等の整備)。
- ・ 商業機能等へのアクセス性の向上や虫食い的な駐車場開発を防止するため、セントラルパーキング機能を有した駐車場の整備。
- ・ パークロードの平面交差を可能とする道路整備(横断歩道設置等)促進。
- ・ 市役所周辺におけるバス停機能の強化やバスターミナル機能の強化。
- ・ 遅い公共交通、いわゆるローカル公共交通の機能強化。
- 両ゾーンの周遊機能の強化に向けた山口駅を発着とする観光周遊バスや小型モビリティ、シェアサイクル等の導入。

②まちなかの賑わいを創出する交流・滞留機能等の集積・強化

- 中心商店街ゾーンにおける回遊を生み出す4つの拠点を含む拠点周辺の機能強化。
- ・ 賑わい交流軸を中心に空き店舗や空きテナント、空き土地等を活用した交流、滞留、オフィス、教育・人材育成機能等の都市機能の集積 促進。
- 中心商店街における店舗等の連続性及び多様性を確保するため、沿道空間の使い方等のルール(まちなみ規範)を策定するとともに、ル ールに基づいた施設整備等に対する支援の検討。
- ・ 公園・広場機能の充実・強化に向けた整備。

③既存ストックを活用した質の高い都市空間の形成

- 市民会館の機能更新に併せた市民会館街区と新本庁舎街区の一体感のある整備。
- ・ 新本庁舎と市民会館の間の市道(中央二丁目湯田温泉四丁目線)の段階的な通過交通の抑制。
- ・ 民間主導によるゾーン内の空き土地や空きビル、老朽建築物等の機能更新と周辺街区の再編等を検討。
- 空き店舗や空きビル等のリノベーションに対する支援。
- 市街地の更新にあたっては昔ながらの街並みや景観を残すとともに路地空間を生かした整備を検討。
- 情報・文化ゾーンに立地する文化施設や情報関連産業等と連携した人材育成機能の強化。
- 県道204号沿線をはじめとしたゾーン内における高速大容量の通信環境の整備。
- 幹線道路の整備に併せ、自動運転等の次世代交通に対応した基盤整備の検討。

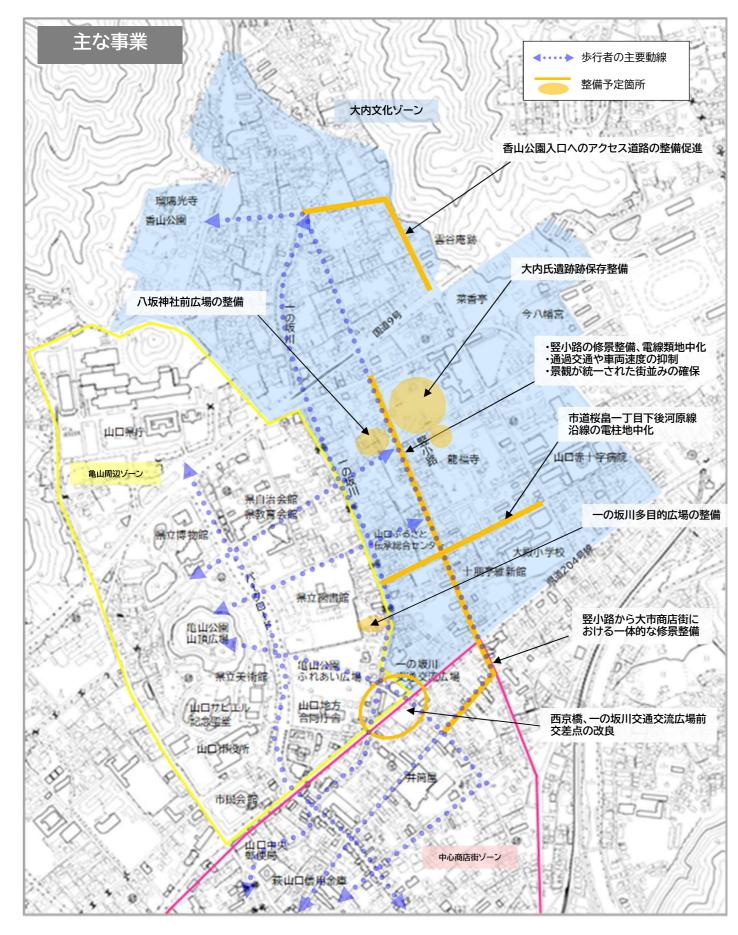
④多様なワークスタイル・ライフスタイルに対応した都市空間の形成

- 生活関連サービス業等の事業所をはじめとした、いわゆるBtoCなどのオフィス機能の集積・導入。
- ・・・職住近接や職住融合等を踏まえた就業の場としての環境整備。
- 様々なライフスタイルを支えるため多様な都市機能の誘導。
- 住宅密集地の解消による防災機能の強化。

7

7 各ゾーンの目指す姿及び具体的な取組(1)山口都市核(1)亀山周辺・中心商店街ゾーン、大内文化ゾーンの目指す姿

イ 大内文化ゾーンの具体的な取組



大内文化ゾーン ~歴史や文化を未来へつむぐ都市空間の形成~

①歴史文化と調和した都市・生活空間の形成

- 歴史ある町割りや町家等の建築物、風情ある街並み等と調和した住宅や事業所等の維持・整備の促進。
- ・ 建築物等と周辺の景観が統一された街並みを確保するため、竪小路、大殿大路沿道を景観形成重点地区へ 位置付け。

②歴史文化資源の保存・活用

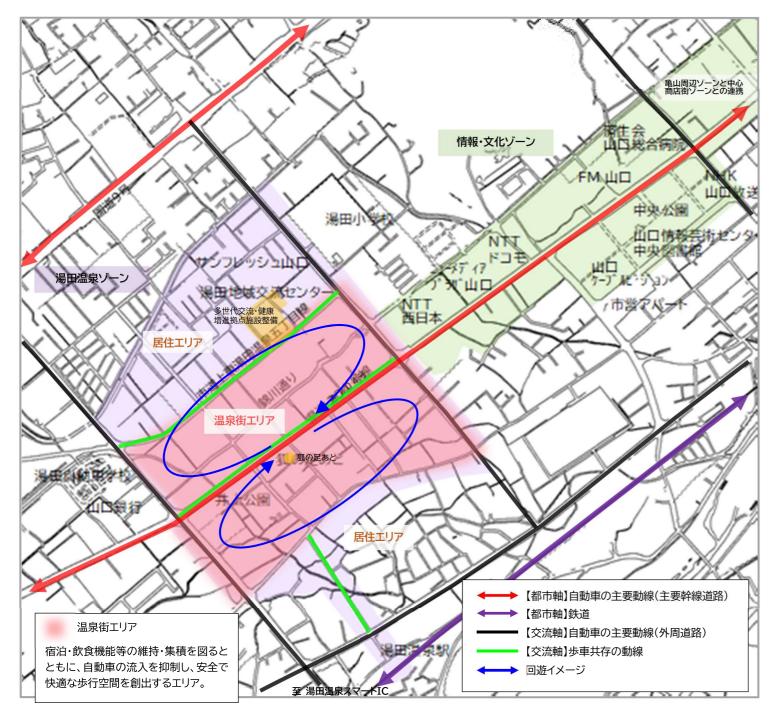
- ・ ゾーン内に点在する歴史文化資源の再生整備(大内氏遺跡跡保存整備等)。
- ・ 町家等の建築物を周辺の景観等との調和に配慮した、統一感のある住居や店舗等として活用する取組に対 する支援。

③歴史散策を楽しめる回遊性の強化

- ・ 香山公園(国宝瑠璃光寺五重塔)へのアクセス道路(野田香山町線、県道山口旭線)の整備促進。
- ・ 竪小路の修景整備(石畳舗装等)と段階的な通過交通の抑制や車両速度の抑制。
- ・ 竪小路から大市商店街における一体的な修景整備(統一感のあるデザイン、サイン等の整備)。
- 西京橋、一の坂川交通交流広場前交差点の改良。
- 県道山口旭線及び市道桜畠一丁目下後河原線沿線の電柱地中化。
- ・ 交流・滞留空間の創出に向けた広場等の整備(一の坂川多目的広場、八坂神社前広場等)。
- ・・ゾーン内に点在する歴史文化資源等を回遊する観光周遊バスや小型モビリティ、シェアサイクル等の導入。

7 各ゾーンの目指す姿及び具体的な取組(1)山口都市核

②情報・文化ゾーン、湯田温泉ゾーンの目指す姿



■情報・文化ゾーン

コンセプト:新たな価値を創造する情報文化都市づくり

情報、文化、教育、交流など様々な都市機能が集積する立地特性を生かし、多様な人々を惹きつけ、創造的活動や交流を通じて Society 5.0 時代やスマートシティを牽引し、新たな価値を創造する情報文化都市づくりを進めます。

【取組方針】

(1)デジタル変革を生かした空間づくり

ゾーン内における大容量の通信環境の整備の促進などデジタル変革を生かした空間づくりを進めます。

②情報・文化等の都市機能を活用した新たな価値の創造

情報・文化等の都市機能が集積している特性を生かし、小郡都市核の産業結節機能を活用したデジタル人材等の育成、多様な人々を 惹きつける交流の場としての機能強化などを図ることで新たな価値を創造します。

③公共空間等の再生整備と交通アクセス性の強化

公共空間等の再整備による都市機能の強化、広域的なアクセス性を強化します。

■湯田温泉ゾーン

コンセプト:住んでよし・訪れてよしの湯田温泉

都市型温泉地として広域的な観光、宿泊・保養拠点機能の充実を図るとともに、豊富な湯量、良質な泉質、長い歴史を誇る温泉地としての魅力をさらに高めることで、人々が訪れるだけの都市空間ではなく、地元住民が生活を楽しむ姿に市内外の人々が惹きつけられ、更なる賑わいや交流につながる都市空間を形成します。

また、温泉街エリアと居住エリアが隣接している特性を生かし、温泉資源を活用した整備等を通じて、居住エリアにおいては共同住宅等の機能誘導を図り、温泉街エリアにおいては宿泊・飲食施設等の機能誘導を図る民間投資を誘引することで、定住人口や交流人口の更なる増加を図る都市空間を形成します。

【取組方針】

①都市型温泉地としての魅力向上

温泉資源の活用による更なる観光、宿泊・保養拠点としての機能を強化し、様々な利用促進を図ることで、温泉街エリアにおいて、民間主導による宿泊・飲食機能等の維持・集積を促進します。また、居住エリア周辺の生活基盤整備等により、質の高い居住環境を創出するとともに、民間主導による居住機能等の維持・集積を促進します。

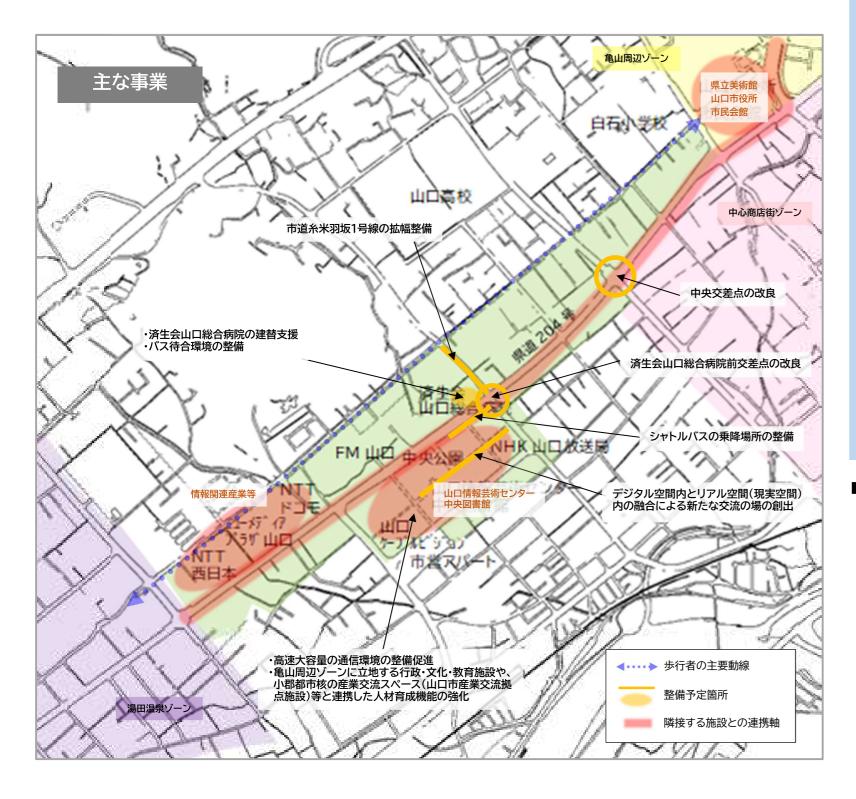
②湯田温泉へのアクセス性強化

公共交通や自家用車等によるアクセス性を高める交通結節機能や広域交通ネットワーク機能を強化します。

③そぞろ歩きを楽しめる歩行者空間の創出

温泉街エリア全体を安全で快適に回遊できる歩行者に優しい環境を整えます。また、ゾーン内の道路の性格付けや機能の明確化を図り、通りに個性を持たせた魅力的な歩行者空間を創出します。

ア 情報・文化ゾーンの具体的な取組



情報・文化ゾーン 〜新たな価値を創造する情報文化都市づくり〜

①デジタル変革を生かした空間づくり

- ・ ゾーン内における高速大容量の通信環境の整備促進と活用。
- ・ 幹線道路の整備に併せ、自動運転等の次世代交通に対応した基盤整備の検討。
- 中央公園や山口情報芸術センターにおける単独イベント、または、中央公園等と複数会場を映像や音声をリアルタイムでつなぐことによる、eスポーツやライブビューイング、ユニークベニューなどのイベント等の開催。

②情報・文化等の都市機能を活用した新たな価値の創造

- ・ 亀山周辺ゾーンに立地する行政・文化・教育施設や、小郡都市核の産業交流スペース(山口市産業交流拠点施設)等と連携した人材育成機能の強化。
- ・ 小郡都市核の産業結節機能を活用した情報関連産業やIT・Web系フリーランス等の更なる集積促進。
- · デジタル空間内とリアル空間(現実空間)内の融合による新たな交流の場の創出。

③公共空間の再生整備と交通アクセス性の強化

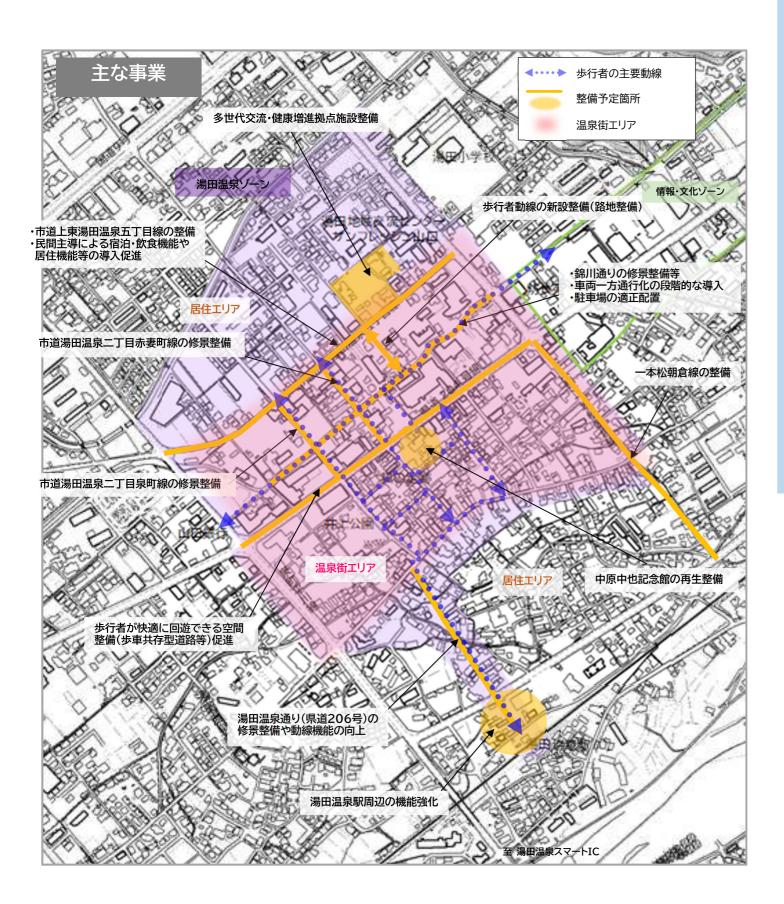
- ・地域医療体制の充実としての済生会山口総合病院の建替え支援と、バス待合環境の整備。
- ・ 済生会山口総合病院前交差点、中央交差点の改良や周辺の歩道整備。
- ・ 市道糸米羽坂1号線の拡幅整備。
- ・ シャトルバスの乗降場所の整備。

■中央公園の環境整備後の活用イメージ



【中央公園によるユニークベニューの開催】

イ 湯田温泉ゾーンの具体的な取組



湯田温泉ゾーン ~住んでよし・訪れてよしの湯田温泉~

①都市型温泉地としての魅力向上

- ・ 湯田温泉ゾーンの更なる賑わいの拠点となる「多世代交流・健康増進拠点施設」の整備。
- 温泉街エリアにおけるホテル・旅館等の宿泊施設の事業継承支援、飲食店等の出店・立地支援等。
- ・ まちづくりルールの策定や支援の検討など、居住エリアと温泉街エリアの特性に応じた民間主導による宿泊・飲食機能や居住機能等の導入促進。
- 湯田温泉駅周辺の機能強化をはじめとした快適な居住環境の形成。

②湯田温泉へのアクセス性強化

- 一本松朝倉線の整備。
- 市道上東湯田温泉五丁目線の整備(歩道整備、道路拡幅)。
- ・ 外周道路の整備に併せ、域外からのアクセス性強化とゾーン内への自動車の流入を抑制するため、集約駐車場の適 正配置。

③そぞろ歩きを楽しめる歩行者空間の創出

- ・ 錦川通りから市道上東湯田温泉五丁目線(多世代交流・健康増進拠点施設)をつなぐ歩行者動線の新設整備(路地 整備)と、市道湯田温泉二丁目赤妻町線、市道湯田温泉二丁目泉町線等の修景整備等。
- ・ 錦川通りの修景整備や滞留空間の整備。
- ・ 錦川通りにおける通過交通の抑制に向けた段階的な車両一方通行化等の規制の導入。
- ・ 県道204号における歩行者が快適に回遊できる空間整備(歩車共存型道路等)促進。
- 中原中也記念館の再生整備。
- ・ 温泉街エリアと湯田温泉駅を結ぶ湯田温泉通り(県道206号)の修景整備や動線機能の向上。

■整備後のイメージ図



【県道204号における歩行者が快適に回遊できる空間整備】



【錦川通りの修景整備】



【市道上東湯田温泉五丁目線の整備(歩道整備、道路拡幅)】



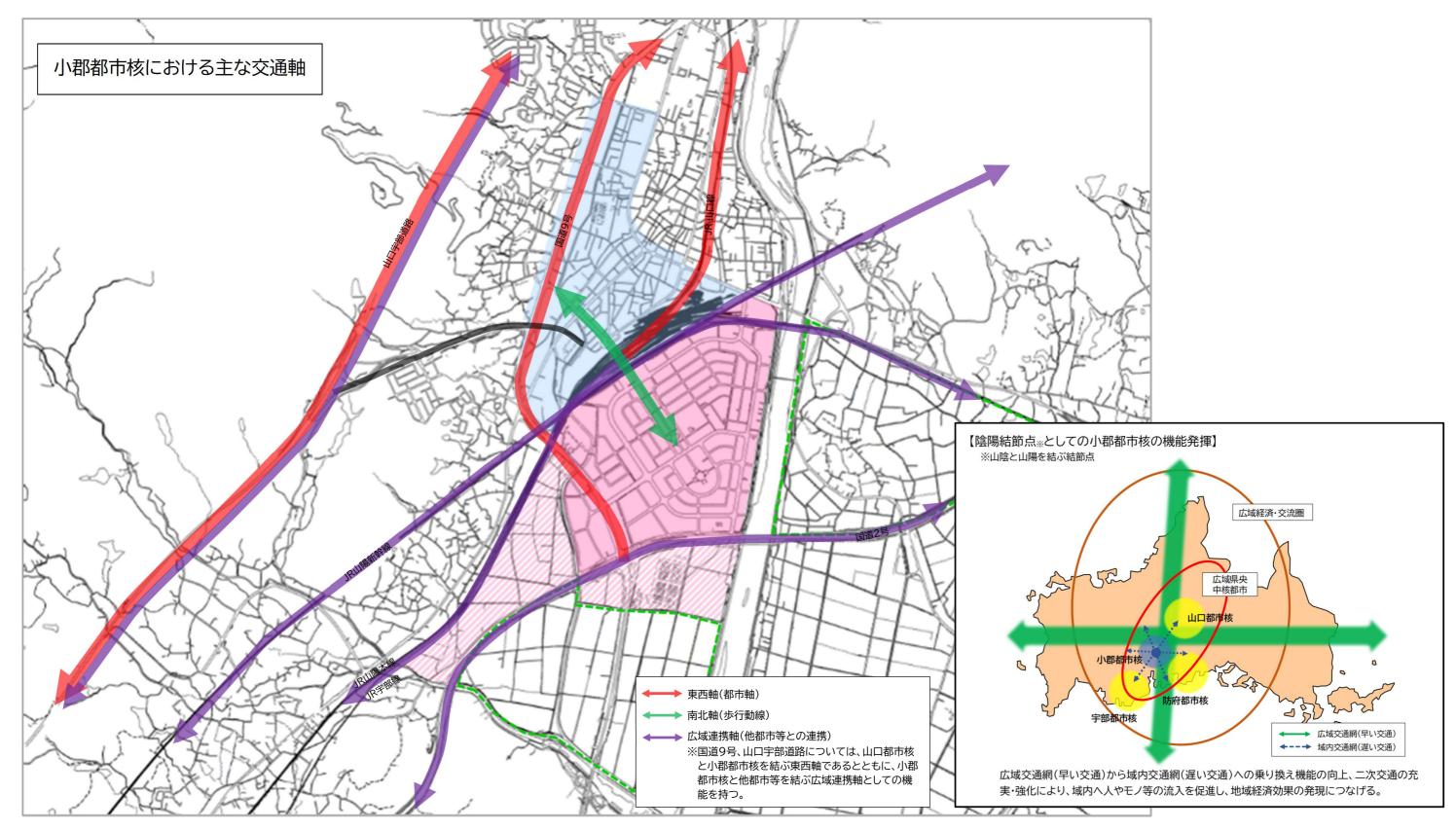
【錦川通りから市道上東湯田温泉五丁目線を つなぐ歩行者動線の整備(路地整備)】

7 各ゾーンの目指す姿及び具体的な取組 (2)小郡都市核

小郡都市核の目指す姿

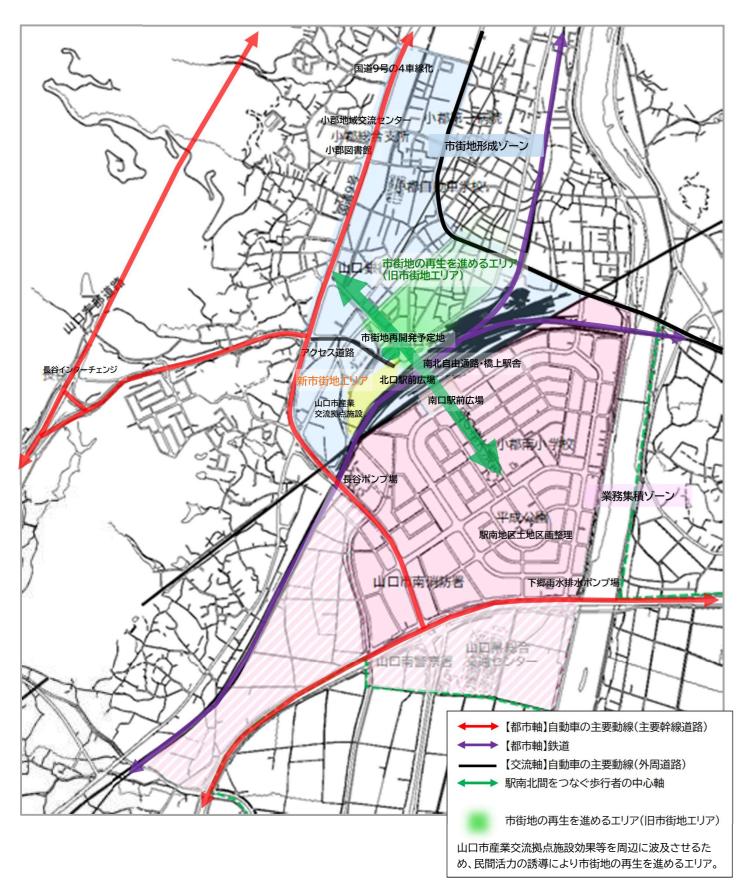
山口県ナンバーワンの交通結節・ビジネス拠点づくり

第4章に示した考え方に加え、広域交通網の整備促進や、概ね整備が完了した駅南側との連携が図られるよう、駅南北間の一体性の向上が可能となるよう、民間活力を生かした北側の再生整備の促進を図る。



7 各ゾーンの目指す姿及び具体的な取組 (2)小郡都市核

①市街地形成ゾーン、業務集積ゾーンの目指す姿



■市街地形成ゾーン

コンセプト:多様な人々の交流を促進する空間づくり

小郡都市核は、山口県の東西軸である山陽新幹線や中国自動車道、山陽自動車道などの広域交通網を有しています。また、南北軸として、JR山口線や国道9号、山口宇部道路を有し、さらに今後、小郡萩道路の整備が進んでいく中、山陰側へのアクセス性が高まっていくことになります。こうしたことから、<u>県の玄関、そして山陰道の西の玄関として、山陰と山陽を結節する陰陽結節機能としての役割を高めていきます。</u>

また、<u>広域交通網から域内交通網へのアクセス性の向上、</u>言わば、早い交通から遅い交通への乗り換え機能の向上を図ることで、域内へ人やモノ等の流入が促進され、地域経済効果の発現につながります。こうした人材や企業等が行き交う交通結節機能を生かし、全国的な人材等と地場企業等の交流を促進することで、企業や地域経済を支える産業人材の育成を図るとともに新たなビジネス機会や新たな価値を創出します。

このように<u>交通結節機能の強化を、現場と本場をつなぐ産業結節機能の強化へつなげる</u>ことで、地場企業の成長、地域経済の更なる活性化を図ります。

【取組方針】

①ビジネス拠点としての発展を支える市街地の形成

市街地の再生を進めるエリアを中心に住民や関係団体、民間企業等で組織された民間主導のエリアマネジメントの導入により更なるまちの価値を高めます。また、駅南のゾーンに集積するオフィス機能等の連携により、ビジネス拠点として必要となる都市機能や生活機能の集積を図ります。

②交通結節機能・アクセス機能等の強化

県の玄関、山陰道の西の玄関にふさわしい広域的な交通結節機能、アクセス機能を強化します。また、域内交通、いわゆるローカル公共 交通等の乗り換え等の利便性向上に向けた交通結節機能を強化します。さらに、駅南北間の一体性や駅周辺の回遊性を高める歩行者空間 を形成や景観形成を図ります。

③産業結節機能の強化~現場と本場をつなぐ~

広域的な交通結節機能を生かし、世界的・全国的な人材や企業等と地場企業や人材との交流を促進することで、企業内における人材育成、地域経済を支える人材育成を図ります。さらに、域内にはない新たな業務等と地場企業をつなぎ合わせることで、新たなビジネス機会や新たな価値を創出し、地場企業の成長、地域経済の更なる活性化を図ります。

■業務集積ゾーン

コンセプト:活発なビジネス活動が展開される空間づくり

新山口駅を中心とする広域的な交通結節点、ネットワーク拠点としての立地特性や、駅北側に山口市産業交流拠点施設が立地する特性等を生かし、県内を管轄する支店や営業所等のオフィス機能の集積を図り、広域経済を支える活発なビジネス活動が展開される空間づくりを進めます。

【取組方針】

①オフィス機能等の集積促進

駅南北のゾーンと連携のもと県内を管轄する支店や営業所等のオフィス機能等の集積を促進します。

②まちなか居住の促進

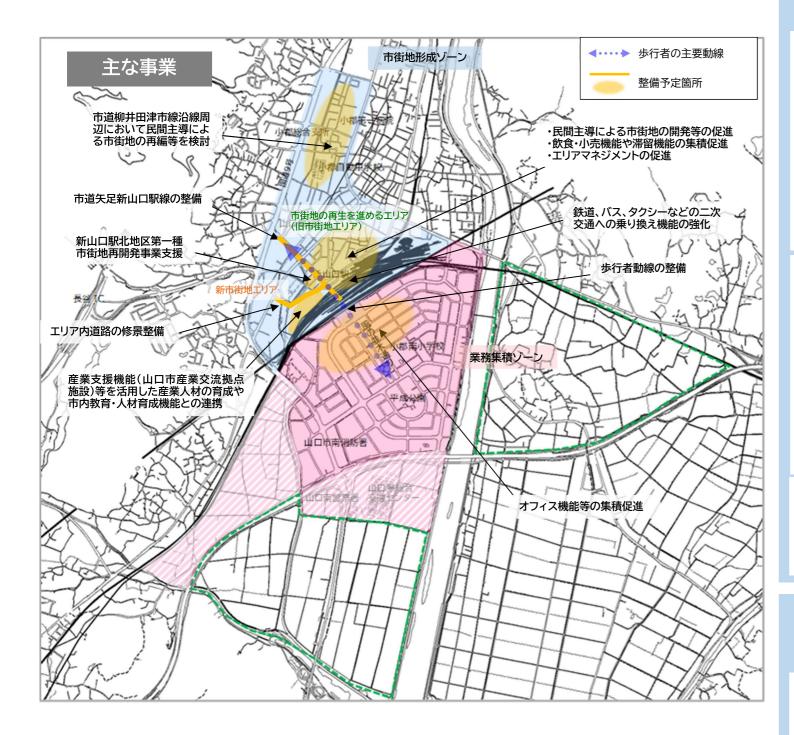
広域的な交通利便性や周辺に行政、商業、医療等の都市機能が集積している特性を生かし、まちなか居住を促進します。

③防災機能の維持・強化

防災機能の維持・強化を図ります。

7 各ゾーンの目指す姿及び具体的な取組(2)小郡都市核

②市街地形成ゾーン、業務集積ゾーンの具体的な取組



市街地形成ゾーン ~多様な人々の交流を促進する空間づくり~

①ビジネス拠点としての発展を支える市街地の形成

- ・ 新市街地エリアにおける市街地再開発支援とこの開発による賑わい等を東側の市街地の再生を進めるエリアへ波及させるための民間主導による更なる開発を促進。
- 市街地の再生を進めるエリアにおいて、市民や来街者、ビジネス客等の滞在時間の延長を図る飲食・小売機能や滞留機能の集積促進。
- 山口市産業交流拠点施設を活用・連携した交流促進の取組推進。
- エリア全体の価値を高めていくため、地元関係者や民間事業者等によるエリアマネジメントの促進。
- · 県内を管轄する支店や営業所等のオフィス機能等の集積促進。
- ・ 市道柳井田津市線沿線周辺において民間主導による市街地の再編等を検討。
- ・ 交通アクセスの利便性等を生かしたまちなか居住の促進。

②交通結節機能・アクセス機能等の強化

- ・ 小郡萩道路の全線開通に向けた整備促進、山陽新幹線等の停車本数の増加に向けた要望、JR山口線の機能強化 や山陰新幹線の早期実現要望。
- ・ 国道2号「防府市台道〜山口市鋳銭司間」の4車線化や国道9号「宮野上下田〜篠目文珠間」の改築に向けた整備 促進。
- ・ 新山口駅(新幹線駅)から鉄道、バス、タクシーなどの二次交通への乗り換え機能の強化。
- ・ 北口駅前通り「市道矢足新山口駅線」の整備やエリア内道路の修景整備。
- 駅と駅周辺をつなぐ安全で快適な歩行者動線の整備。
- 北口駅前広場や南北自由通路等を活用した交流創出支援。
- 新山口駅観光案内所や案内板等を活用した情報発信機能の強化。

③産業結節機能の強化

- ・ 地域経済を支える産業人材の育成に向けた、国外・県外の新たな人材と地場企業との交流促進の場づくり。
- ・ 産業支援機能(山口市産業交流拠点施設)等を活用した産業人材の育成や市内の教育・人材育成機能との連携。
- ・ 域外の新たな業務等と地場企業とのつなぎ合わせによる、域内における新たなビジネス機会等を創出。

業務集積ゾーン ~活発なビジネス活動が展開される空間づくり~

①オフィス機能等の集積促進

- ・ 県内を管轄する支店や営業所等のオフィス機能等の集積促進。
- 土地の高度利用による民間オフィスビル等の建設促進。
- ・ 公共交通と自家用車などを組み合わせた多様な移動手段、通勤手段の確保。
- ・ 駅南北間、駅と周辺エリアをつなぐ安全で快適な歩行者動線の整備。

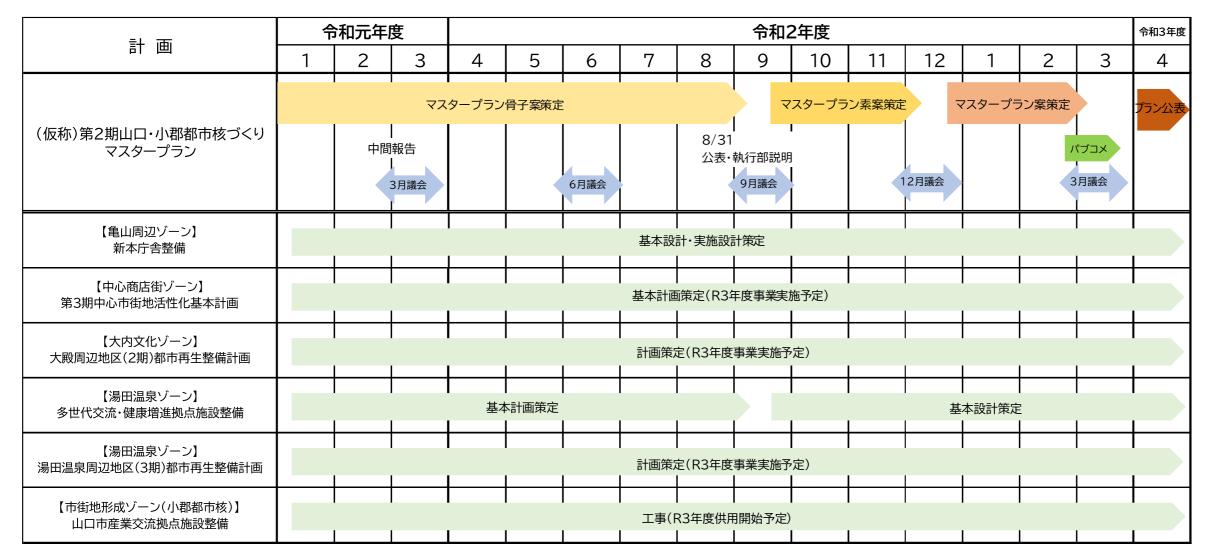
②まちなか居住の促進

・ 交通アクセスの利便性等を生かしたまちなか居住の促進。

③防災機能の維持・強化

雨水排水などの防災機能の維持・強化。

8 今後のスケジュール



9 その他(検討の場)

- ●都市計画の専門家、都市計画・建築関係を専攻している大学生、市民によるワークショップを実施。
 - ・「亀山周辺ゾーン・中心商店街ゾーン・大内文化ゾーン」:3回(R1.7 月~9 月)
 - ・「湯田温泉ゾーン」:3回(R1.7月~9月)
- ●小郡都市核において、H28.2 月~3月にJR新山口駅北地区を中心とした「まちなみ景観市民ワークショップ」を2回開催。
- ●都市計画の専門家との協議
- ●庁内関係課によるワーキング